



# くれよん

2025年 1月15日 第176号  
NPO 法人町田市学童保育クラブの会  
所在地 町田市中町 1-19-5  
大貫ビル202  
電話 042-794-7235  
広報担当 発行



## 新年挨拶

昨年中は当法人の運営に、ご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。広報紙くれよんでは、引き続き法人の活動や運営、各学童保育クラブの様子を発信してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

## 保護者と支援員の学習会

12月21日(土)に小川小学校のプレイルームにて開催されました。当日は現地会場、サテライト会場、オンライン合わせて39名の参加がありました。

この学習会は、学童保育クラブを利用している保護者、支援員、子育てに関わる全ての方と共に学び考える場を提供し、子育てへの向き合い方を考えるきっかけとなることを目的とし、開催しています。今回は『思春期と向き合う』をテーマに宮下 聡先生をお招きしました。宮下先生は、36年間東京都の中学校教師を経て、昨年3月まで都留文科大学教職支援センター特任教授、現在は川口市いじめから子どもを守る委員会の委員を務めています。

まず始めに宮下先生による講義では、思春期とはどんな時期であるか、自分がどんな思春期を送っていたかを振り返りながら、子どもの思春期を自分事と捉え対応していくことの大切さを学びました。また大人目線に立って物事を考えるのではなく、子どもの目線に立ち、行動や言葉の背景にはどのような意味があるのかを考え、対応していくことが必要なことであるとお話がありました。最後に質疑応答を行い、事前に募った質問やオンライン参加の方からいただいた質問に答えいただきました。今回の学習会で、子どもを『信じて、まかせて、待つ』ことが思春期にある子どもと向き合うことにつながるということを学びました。これから思春期を迎えるお子さんがいる方、今お子さんが思春期に直面している方など、様々な人の心に響く貴重な時間となりました。



宮下 聡先生



教え子(保護者)と先生の再会



学習会の様子

参加された方の感想を一部掲載いたします。

- 子どもの心のドアノブは子ども側にしかついていない、こじあけたものは本音じゃないかもしれないという言葉にどきりしました。無理にこじあけようとしていないか、と自分自身の子育てを振り返りました。
- 子どもを信じて、任せて、待つ、という大切な力を親は養っていかなければならないと思いました。ありがとうございました。

### 目次

- 1面：新年挨拶/保護者と支援員の学習会
- 2面：全国研の報告
- 3面：ロケットキッズ活動報告
- 4面：連載企画『クラブの一コマ』

### 今後の予定

#### ぶちくれよんひろば(子育て支援事業)

- |            |          |
|------------|----------|
| 1月企画：29日   | 3月企画：19日 |
| 開放：15日、22日 | 開放：12日   |
| 2月企画：26日   |          |
| 開放：12日、19日 |          |



## 全国研 in Okayama



11月16日(土)、17日(日)に全国学童保育連絡協議会が主催の『第59回全国学童保育研究集会』が岡山県倉敷市で開催されました。全国学童保育研究集会、通称『全国研』とは、保護者、支援員、運営者や自治体職員、研究者の方々が一堂に会し、1年に1回、2日間にわたって交流し、共に学びあう研究集会です。岡山県での開催は11年ぶりでした。オンラインとの併用で今年度は総勢4829名、当法人からは8名が現地参加しました。



1日目は倉敷市民会館で、岡山県の学童保育クラブの子どもたちによる歓迎行事から始まりました。『うらじゃ』という岡山県に伝わる伝統的なお祭りの踊りの披露や音楽に合わせたけん玉やコマを使った技を披露してくれました。



基調報告では全国学童保育連絡協議会会長の戸塚丈夫氏より、学童保育の現状に関する報告に続き、いま改めて『学童保育とは何か』『学童保育の役割を果たすために必要な条件は何か』『どのような学童保育が子どもたちに求められているか』を明らかにしていくことや、これまでの保育実践と運動がつくりあげてきた貴重な財産を発展させ、次の世代に継承していくことが、学童保育を発展させていく大きな力になる等のお話がありました。また、神戸大学の川地亜弥子先生による『子どもも大人も育つ学童保育～思いっきりあそび、人生の土台をつくる～』というテーマで記念講演がありました。

2日目は川崎医療福祉大学で、27テーマの分科会が開催されました。16テーマの分科会はオンラインで行いました。『学童保育ってなァに?』等の基礎講座から『公立公営の学童保育―意義と役割―』等の運動を交流する分科会、『高学年の子どもたちの生活と理解』等の講義と交流の分科会、また特設分科会として『学童保育の防災～災害への備えを考える～』等の分科会がありました。保護者や支援員等の様々な立場の方が集い、それぞれの視点からテーマについての考えを深め交流する貴重な機会となりました。今回の研修で学んだことを支援員間で共有し、より良い保育の実践に繋げていきたいと思えます。

来年は福岡県で開催予定です。支援員だけでなく、保護者の方も参加できます。ご興味ある方は、今年度のまとめの冊子がクラブにあるのでご覧ください。



## ロケットキッズ活動報告



12月7日（土）8日（日）に第3回ロケットキッズをNature Factory 東京町田で行い、児童11名、インターン生2名、ボランティア3名が参加しました。ロケットキッズは当法人の子どもの居場所事業として活動しています。今回の企画では6月のロケットキッズに参加した子どもも多く、久しぶりの再会に会話が弾み、賑やかな雰囲気が始まりました。

屋外企画ではグループに分かれウォークラリーを行い、ミッションの内容は6月の子ども会議でリクエストのあった『O×ゲーム』『片足バランス対決』『王様じゃんけん』に挑戦しました。クリアすると夕食のカレーの具材が書いてある封筒をもらうことができ、成功するたび盛り上がっていました。飯盒炊爨では自分たちで薪割りをし、火打ち石や火おこし器を使って火をおこして米を炊きました。その蓋を開けた瞬間は炊飯器とは違うお米の香りが漂い、夕飯が待ち遠しくなりました。カレー作りは皮むきや具材切りから完成するまで和気あいあいとした雰囲気が進み、おかわりは他の班のカレーも堪能しました。食後はみんなで散歩に行き、焚き火を囲みココアを飲みながら歌や花火をして山の夜を楽しみました。



2日目の朝食はカートンドッグを作りました。ホットドックに具材をはさみ、アルミホイルに包み牛乳パックに入れ火をつけて、牛乳パックが燃え尽きたら完成です。朝の冷え込みの中頬張る温かいカートンドッグとスープは格別でした。最後に交流ゲームで人間オセロ、外で自由あそびを楽しみ、地域を越えて仲間と関わることができた2日間となりました。今後も魅力ある企画を立て仲間作りを広げていきたいと思ひます。



## クラブの一コマ

今年度の連載企画は13クラブの様子を『クラブの一コマ』と題して紹介していきます。日常の一コマを切り取り、学童保育クラブの様子や過ごし方など写真や文章を通して知っていただければと思います。

今回は、図師クラブのお掃除の様子とわんぱくクラブのおやつ時間の様子をご紹介します。

### 図師クラブ



毎週月曜日と水曜日に班で清掃活動をしています。班の中で一番上の学年の子どもがリーダーとなって、床掃き・本棚整理・おもちゃの整理・玄関掃除をしています。小さいホウキを持って床や玄関をきれいに掃いたり、本とおもちゃが入っている棚をきれいに整頓したり、みんなで過ごす学童保育クラブが隅々まできれいになるよう、取り組んでいます。



### わんぱくクラブ

わんぱくクラブでは、おやつ前に“なぞなぞ”“じゃんけんゲーム”等のみんなで楽しめるゲームをしたり、クラブの月の目標を話し合ったりします。「いただきます」の挨拶を元気よくしてから班の仲間と話したり、時にはおかわりをしたりして楽しくおやつを食べています。「ごちそうさま」の挨拶の後は、自分のお皿の周り等を確認して、汚していたらきれいにするということを習慣として行っています。

